

## さいわいなるかな

ルカによる福音 6:17、20-26

（そのとき、イエスは十二人）と一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびただしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、（来ていた。）

さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。人々に憎まれるとき、また、人の子のために追いつかれ、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、あなたがたは悲しみ泣くようになる。すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

### 説教

イエスさまは「貧しい人々は幸せだ」と教え始めます。いきなり幸せは貧乏だ、などといわれればびっくりします。この教えをイエスの口からはじめて聞いた人々もさぞかしびっくりしたことだと思います。

ここでいう「貧しい」を貧乏のことではなく仏教でいう「無一物」と解釈する人がいます。

無一物（むいちもつ・むいちぶつ）とは「何も持っていないこと。何ひとつ無いこと」という意味です。仏教で教える空（くう）の概念にも関係する

ようです。事物はすべて空（くう）であるから執着するものはなにもないという意味で無一物というそうです。これをイエスのことばにおきかえてみると「何もっていない人は幸せだ。神の国はその人のものだ」となります。

**幸福（さいわい）なるかな、貧しき者よ。神の国は汝らのものなり**（ルカ6:20 文語訳）

このイエスのことば「貧しき者」をむかしからいろいろな人が解釈し、実践してきました。そして目に見える形や見えない形で現実の世の中によい影響を与えてきました。しかし「貧しき者＝無一物の者」と解釈するなら、いままでの実践実績とは違う結果がでてきそうです。自分・わたくしを無一物と自覚することは自分を卑下することではなく、本来の自分、神がお造りになったわたくし、何もっていない、何ひとつ無いわたしを知ることです。この感覚は頭で理解する事柄ではなく、実際の体験、経験をとおして身に染みてしか知ることができない事柄です。残念なことに説教を聴いてもわかりません。説教をきいたり、礼拝することは知るキッカケになることはありませんが、じっさいに自分の身にふりかかる経験・体験をとおしてほんとうの理解ができるたぐいの事柄です。

ある日、ある時、無一物の私になったときに「幸福（さいわい）なるかな、貧しき者よ。神の国は汝らのものなり」と神の祝福がゆたかに注がれますように。

-----